# イエス・キリストのメッセージ

### 2015年2月24日

### クリスマスイブ礼拝

### スワーミー・メーダサーナンダによる講話

### 於・逗子協会

イエス・キリストの生誕から2千年以上が過ぎました。外面的には大工の息子に過ぎないキリストが、全世界にどれほど大きな影響を与えたかは、言うまでもありませんね。

## キリスト抜きのクリスマスとは？

キリストは、単なる聖者、預言者ではなく、神の子でした。キリストは全人類に平和と真理の光を示され、キリスト教徒のためだけでなくすべての人々のために現れられたのです。だから、ヒンドゥー寺院の会員である私たちがクリスマス・イブにキリストの礼拝を行うのです。私たちはシュリー・ラーマクリシュナの信者ですが、キリストやブッダを始めとする霊性の指導者らの生涯や教えからもインスピレーションを得ています。

近年、クリスマスは飲食やマーケティングのためのイベントとして祝われることが多く、本来の精神はほぼ失われています。しかしこの機会に、キリストの理想とキリストが私たちに残してくれた素晴らしい教えを思い出し、そこから学びましょう。お金や快適な人生がどれほど楽しいものであっても、その喜びは一瞬に過ぎず、平安を得ることもできません。事実、収入が増えて生活水準が高くなればなるほど心の平和が失われていくことは、周りを見れば明らかでしょう。消費主義が、平安への道を歩むことを許してくれないのです。よい生活をすることには何の問題もありませんが、今夜のような機会には、キリストを始めとする霊性の巨人の生涯や教えを思い出すべきですし、そうすることで人生のバランスも取れるでしょう。

世界各地で行われている様々な祭りを見てみると、その大半は宗教が起源ですが、非常に悲しいことに、起源については忘れ去られて祭りを楽しむだけになっているのが現状です。キリストのことを思い出してクリスマスを祝う必要はここにあるのです。キリスト抜きのクリスマスは、頭のない体のようなものです。

## 教えの中心

さて、キリストの教えの中心とは何でしょうか。ロシアの文豪レフ・トルストイによると、キリストの教えの中心には「神への愛」と「隣人愛」の2つがあります。トルストイは、神への愛は「完全性への愛」であると言いました。キリストも、「だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」（『和英対照聖書』日本聖書協会）と仰いました。ですから、私たちは皆、自分なりのやり方で完全になることを目指すべきでしょう。もう1つの中心的教えである「隣人愛」は、自分の隣人に仕えることで実践されねばなりません。仕えることなく愛するというのは単なるリップサービスで、表面的で無意味なものです。

キリストの生涯を見てみると、こうした教えが実践されていることが分かります。神様に対するキリストの愛がどれほど大きかったか、どの出来事からも知ることができます。また、聖書には、キリストが人々を愛し人々に仕えた例が数多く見られます。キリストのところには苦しむ人々がたくさんやって来ました。病人だけでなく悪霊に取り憑かれた人々さえもキリストのもとを訪れ、キリストはその痛みを取り除かれました。これは、オカルト的な力を見せびらかすためでも他者より優れていると示すためでもなく、人々への慈悲を示されたのです。キリストが人々を癒やされたのは、肉体的な面だけではありません。心を癒やして人々に平安をお与えになったことが、より大切なのです。仕えるという点では、キリストは自分の弟子の足も洗われましたね。だから、キリストの生涯は、愛と奉仕の手本なのです。

## より高い理想とは

ではここで、神を愛することと隣人を愛し隣人に仕えることは別のことなのか、それとも関係のあることなのか考えてみましょう。シュリー・ラーマクリシュナとスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えを見てみると、この2つには関係しているのが分かります。それは、苦しむ人々、貧しい人々、病人、教育のない人々の中に、私たちの愛する神を見、彼らに仕えるという教えです。このような考え方は単なる想像なのでしょうか。聖典には「神は遍在である」と書いてあります。つまり、神様は万物の中にいらっしゃるのです。

シュリー・ラーマクリシュナは、チャイタンニャ（意識）には「アヌマーナ・チャイタンニャ（Anumana Chaitanya）」と「プラティヤクシャ・チャイタンニャ（Pratyaksha Chaitanya）」の2種類があると、大変美しく表現されました。アヌマーナ・チャイタンニャとは、祭壇に置かれた礼拝の対象となる絵や写真、像の中にあると考えられる意識です。一方、プラティヤクシャ・チャイタンニャは、人間などの中に現れている意識のことです。人間を生きている意識、神の意識として礼拝して人間に仕えることは、絵や像の中に神様がおられると想像して絵や像を礼拝するよりも理にかなっていますね。

信仰心の篤いある信者が、夢の中で神様に「明日お前のところに行こう」と言われました。信者は大喜びで部屋を掃除し、神様のためにおいしい料理も用意しました。翌日、信者は万全の体制で神様を待っていましたが、いくら待っても神様は現れません。すると突然玄関のベルが鳴りました。信者がドアを開けると、貧しい男が食べ物をねだってきました。信者は、男の空腹が満たされるまで食べ物を与えてやり、神様を待ち続けました。また玄関のベルが鳴り、今度こそ神様だろうと思って信者がドアを開けると、ぼろぼろの服を身にまとった男がいました。信者は可哀想に思って自分の持っている立派な服を与えてやりました。その後も神様は現れず、信者は非常に腹立たしく思いながら眠りにつきました。夢の中に神様がまた現れたので、信者は文句を言いました。「来ると言われたのに、いらっしゃらなかったのですね」神様は言われました。「息子よ！私は行ったぞ。お前が私に気付かなかっただけだ。だが私はそれでも満足だ。お前はよく仕えてくれた」これを聞いて信者は驚き、どういうことかと尋ねました。「私は最初に貧しい男のふりをして行ったのだ。お前は腹一杯食べさせてくれたね。次はぼろをまとって行ったら、お前はよい服をくれたではないか」

## 無私の奉仕の正しい態度

このことから、苦しむ人々のために奉仕がなされると神様は喜ばれるのだと分かります。しかし、このような奉仕を行うには、ある心構えが必要です。そうでないと、正しい態度で奉仕を行うことができません。他者に仕える時に、私たちの心の中に虚栄心が膨らむ可能性があります。名声への期待が生じるかもしれません。仕える側に欲や怒りの気持ちがあると、奉仕の精神が失われてしまいます。ここが、真の意味での無私の奉仕、奉仕の精神での奉仕が実は難しい点です。

キリストの教えを実践して人々に仕えるために、カトリック教会が長きにわたりあらゆる奉仕をしてきたことはよく知られています。病院や学校を始め多くの慈善団体を設立しました。2009年にこのヴェーダーンタ協会の創立50周年記念の開会式をインド大使館で開催した時に、カトリック教会の森　一弘司教をお招きしてスピーチをいただきました。森司教はカトリック組織の高い地位にあられながらも、カトリック教会の奉仕活動の多くは何か目当てがあって行われたものであったと言われ、その率直なご意見に私たちは感銘を受けましたね。こうした奉仕活動は、改宗を狙ったり、土着の宗教に対する優越感の表れであったりしたのです。森司教は無私の奉仕の例として、マザー・テレサのインドでの活動を挙げられました。森司教のお話からも分かるように、慈善活動はたくさん行われているかもしれませんが、無私の精神での奉仕は非常に難しいことで、仕える側に怒りや欲、エゴ、虚栄心、自己中心的な気持ちがあってはいけないのです。

他者に仕える時に、霊的な見方、すなわちご奉仕する相手は神様の現れなのだと見るようにすれば、正しい態度で無私の奉仕を行うことがより簡単にできます。だからスワーミー・ヴィヴェーカーナンダは「貧しい神様（daridra Narayana）」「病気の神様（rugi Narayana）」「無学の神様（illiterate Lord）」という言葉を作られたのです。私たちは、貧しい人、病気の人、無学の人に仕えているのではなく、貧しい神様、病気の神様、無学の神様に仕えているのだという態度でご奉仕せねばならないのです。

## 永続する平安への道

ワーラーナシー（ベナレス）のラーマクリシュナ・ミッションには病院があり、以前そこにシュリー・ラーマクリシュナの出家の弟子スワーミー・トゥリヤーナンダジーがお住まいでした。トゥリヤーナンダジーはそこで働いていたブラフマチャーリ（見習い僧）に、病院で君は何の仕事をしているのかと尋ねられました。ブラフマチャーリが「病人のお世話をしています」と答えると、トゥリヤーナンダジーは「患者の神様」のお世話をしていると言いなさいと正されました。キリストの教えである、神への愛すなわち完全性への愛や隣人愛を実践したいのであれば、このような霊的な考え方を身につける必要があり、こうした態度で他者に仕えることが平安に至る最も確かな道なのです。皆、心の平安を望みますが、どうしたらそれを得られるか知りません。神を愛し他者に仕えることは、永続する平安に至る最も確かな道です。

自分や家族のことを考えれば考えるほど、心の平安は失われます。神様のことや他者の幸福を考えると、永続する平安が得られます。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、人間の生きる目的は「Atmano Mokshartam Jagad-hitaya」、すなわち「自分の真我は神と同一であることを知り、他者の中におられる神にお仕えすること」だと言われました。

永続する平安が本当に欲しいのであれば、キリストの2つの中心的教えとその関係性を、またそれとよく似ているシュリー・ラーマクリシュナとスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えを心に留めて、実践を心がけましょう。